

学生が江田島市内バス停を調査し、オープンデータに活用

～平成 28 年度江田島市地域戦略協働プロジェクト報告～

平成 28 年度江田島市と地域戦略協働プロジェクトにおいて、「自治体のオープンデータ化推進モデル構築プロジェクト（代表者：経営情報学部 経営情報学科 市村匠 教授）」を実施している。このプロジェクトにおいて、江田島市における公共交通機関（バス）について、バス停や時刻表の現地調査を経営情報学部 3 年生及び 4 年生が実施した。

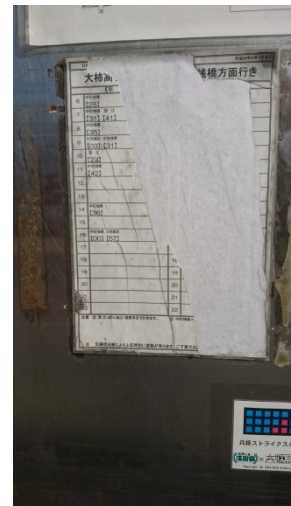
江田島市役所ホームページに掲載されている時刻表には、すべてのバス停が表記されておらず、市外からの来訪者からは分かりづらい形式になっている。これらの時刻表から、オープンデータとして公開するために、学生が江田島市内のバス停の現地調査を行った。

すべてのバス停で、停留所に記載されている時刻表や、停留場の周囲の写真撮影を行い、時刻表だけでは分かりにくい情報を現地にて確認した。バスの本数が限られているため、学生らはレンタサイクルにて、島内をまわり、停留所を一つ一つ調査した。その結果、停留所の所在が分かりにくい場所や時刻表が破損している箇所が見つかった。これらは市外からの来訪者にとっては、分かりづらいと考えられる。

今後、このデータを GIS (Geographic Information System: 地理情報システム) フォーマットにし、オープンデータとして提供する予定である。



学生が調査している様子



時刻表が破損している状況